

第32回札幌市自立支援協議会（令和元年5月21日開催）

意見参加シート

（原文のまま掲載しています。傍聴の方は当日の発言をご遠慮いただいているため、傍聴の方に対し、意見参加シートを配布しています。）

意見者	内容	分類
1	<p>・ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームの報告で出された「人材不足」の課題は、「重度障がい者の在宅生活に関するあり方検討会」？で実施したアンケートでも浮きぼりになっていた。運動した動きがとれると良いと思う。</p> <p>・重複プロジェクトで重症心身障がい者の課題の引き継ぎ先が無いという報告があったが、協議会全体を見ても重度の障がい者の地域生活支援を話す場の少なさを感じる。地域移行プロジェクトも有期限であることをふまえると、何らかの形で重度知的障がいのある人（本人の参加や発信の難しい人たち）の地域生活を協議する場を設けてほしい。</p> <p>・障がい者プランの調査、小谷委員の意見に賛成です！</p>	<p>協議会運営 市の事業に関する 意見</p>

2

・各プロジェクトチームが課題に対し様々な取り組みを
されていますが、「取り組んだ」先に本当に根本の課題
を解決したかどうかまでがあいまいに思います。長期的
にとりくむ形にならないのでしょうか(有期限でなく。
住まいやヘルパーは特に生活に直結すると思うため)
ずっと「課題」と言われてきているものに対し2年や3
年という期限は短すぎるのではないのでしょうか。
・ヘルパーの人材不足は大きく、調整を担う相談室の立
場でもとても困っています。また、単価の低いサービス
は尚更難しいため、数か月またせているケースも実際あ
るため、ヘルパーという仕事の魅力を伝えていくのも大
切ですが、ヘルパーという仕事で自立できる位報酬がな
いと単価等でなく本人の生活をしっかりみてくれる事業
所・ヘルパーの方々がやめざる得ない状況になっている
ため、行政でしっかり検討して頂きたいと思います。
・指定をする、アンケートをする行政の方々が実際の現
場、あるいは施設や本人たちのリアルな生活を沢山み
る、知る、ふれる機会を増やしてもらいたいと思いまし
た。

協議会運営
制度に関する意見